

電子書籍から考える デジタル時代の大学図書館

日本大学文理学部 小山憲司
koyama.kenji@nihon-u.ac.jp



電子書籍セミナー
「電子書籍は学修と図書館を変えるか？」
2015年7月27日@紀伊國屋サザンシアター

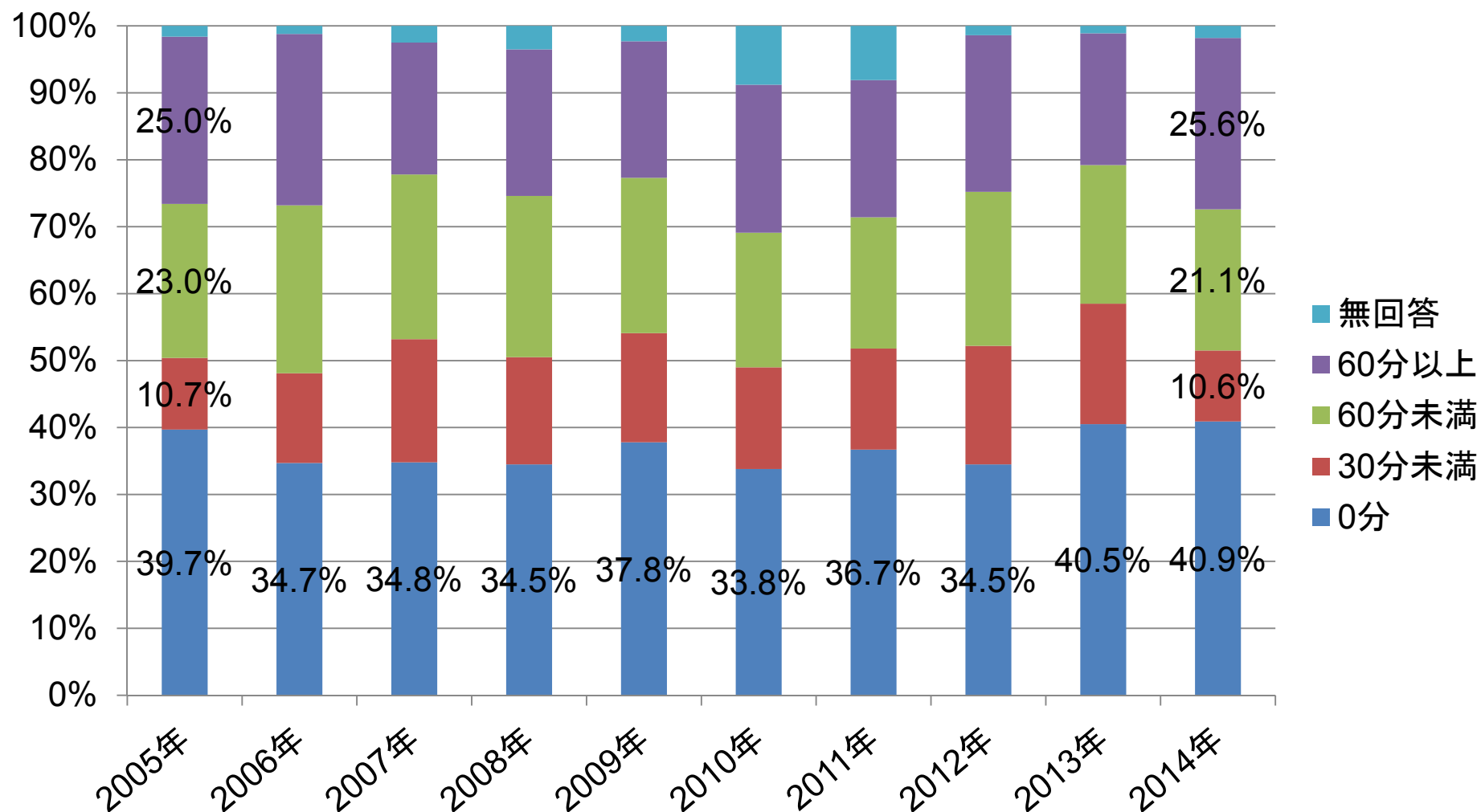


目次

- 大学図書館の利用者を知る
 - 大学生
 - 教職員・研究者
 - 多様化する大学生
- デジタル時代の情報アクセスモデルと図書館
- 数字で見る大学図書館の現状

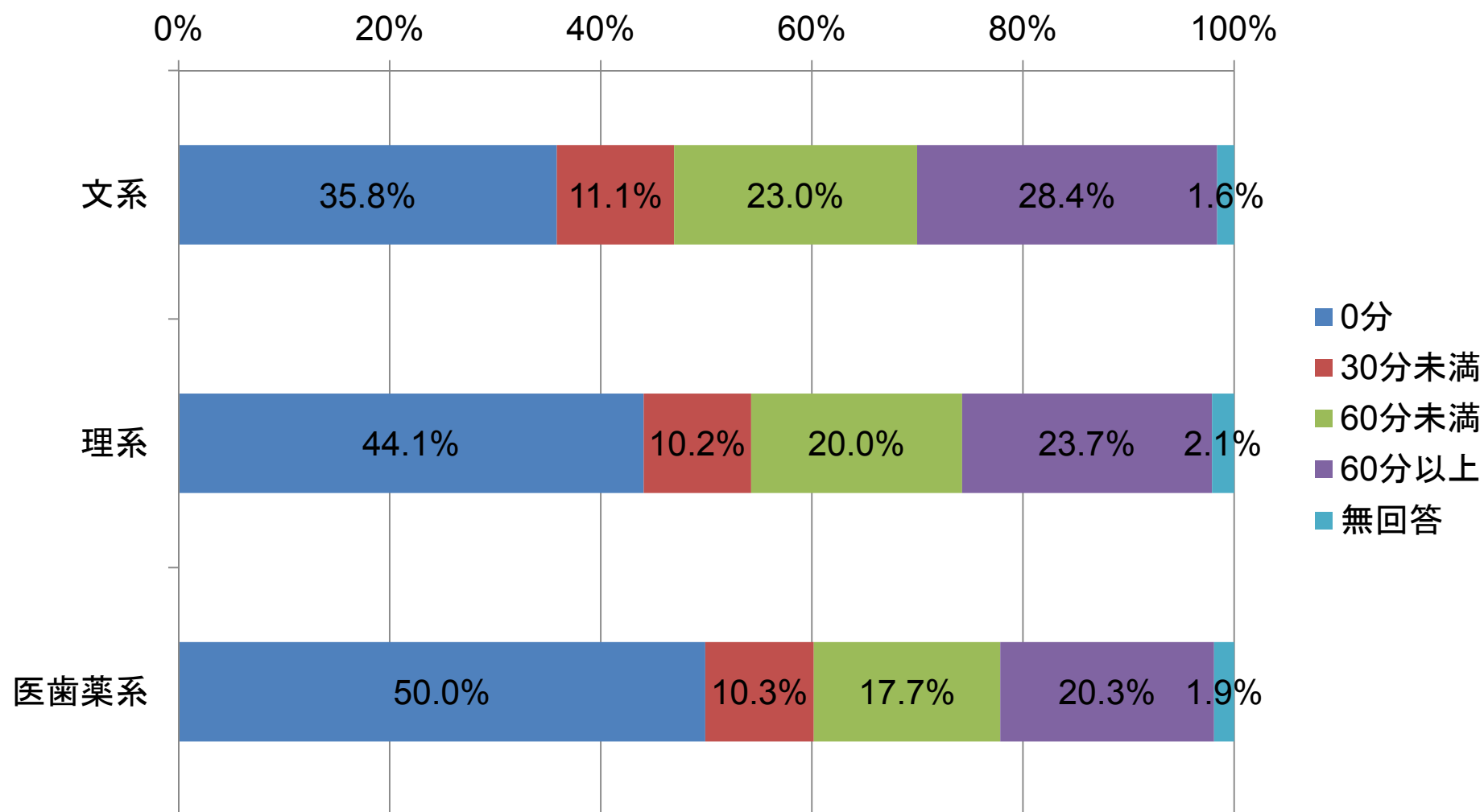
読書しない大学生？

1日の読書時間

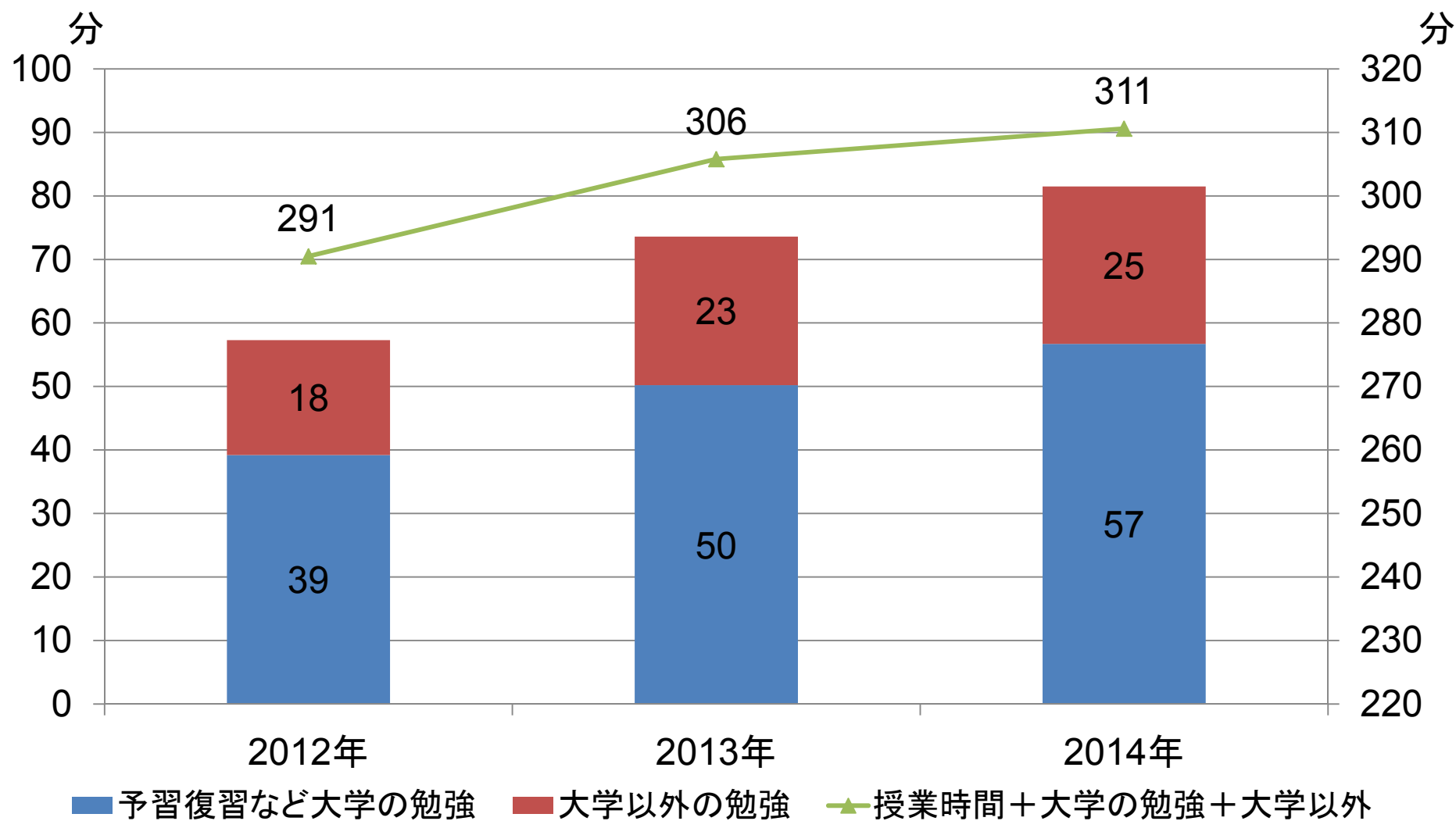


出典:『Campus Life Data 2014: 学生の消費生活に関する実態調査報告書』全国大学生生活協同組合連合会, 2015, p.51.

1日の読書時間(2014年、専攻別)

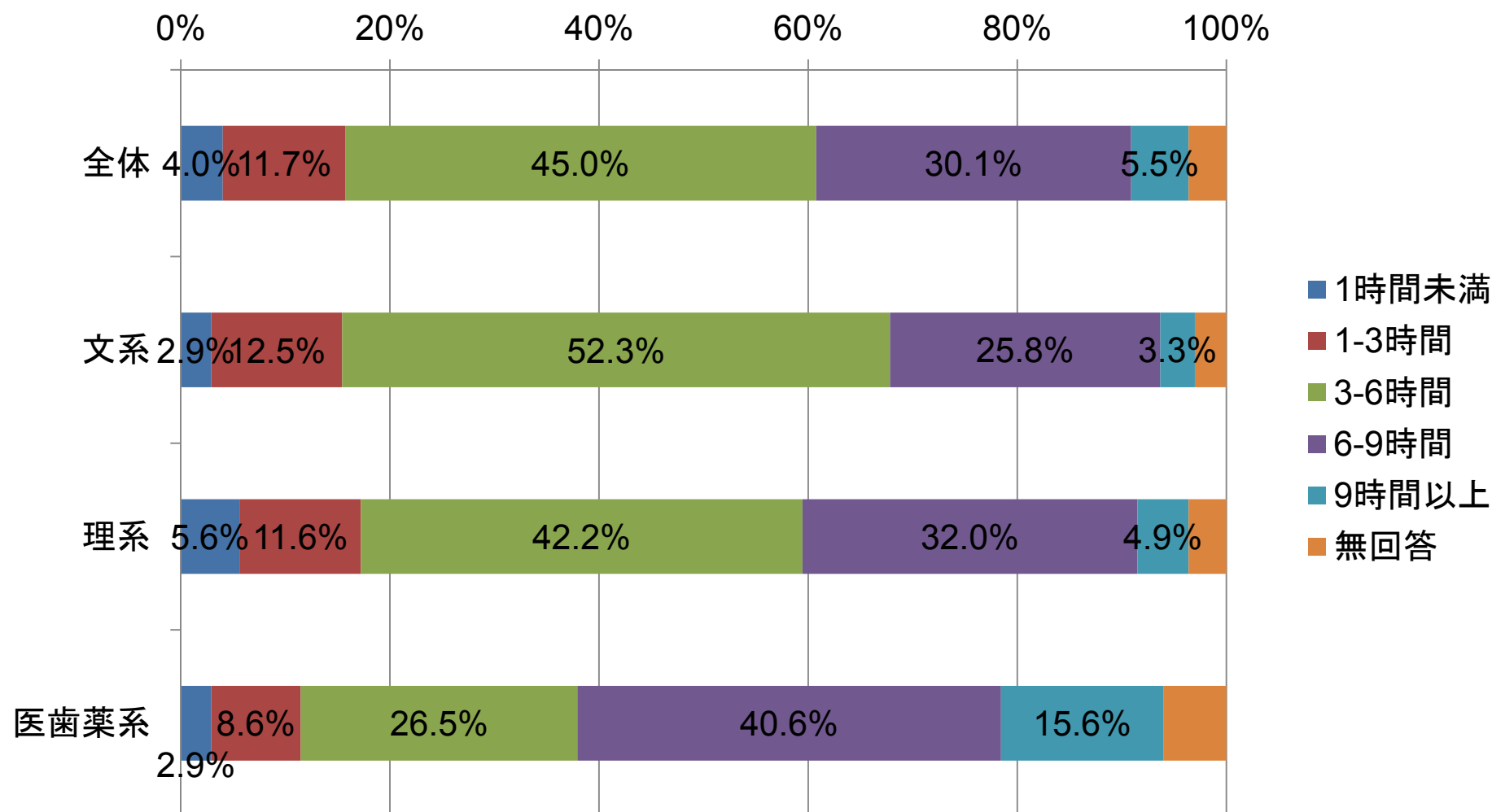


1日の勉強時間



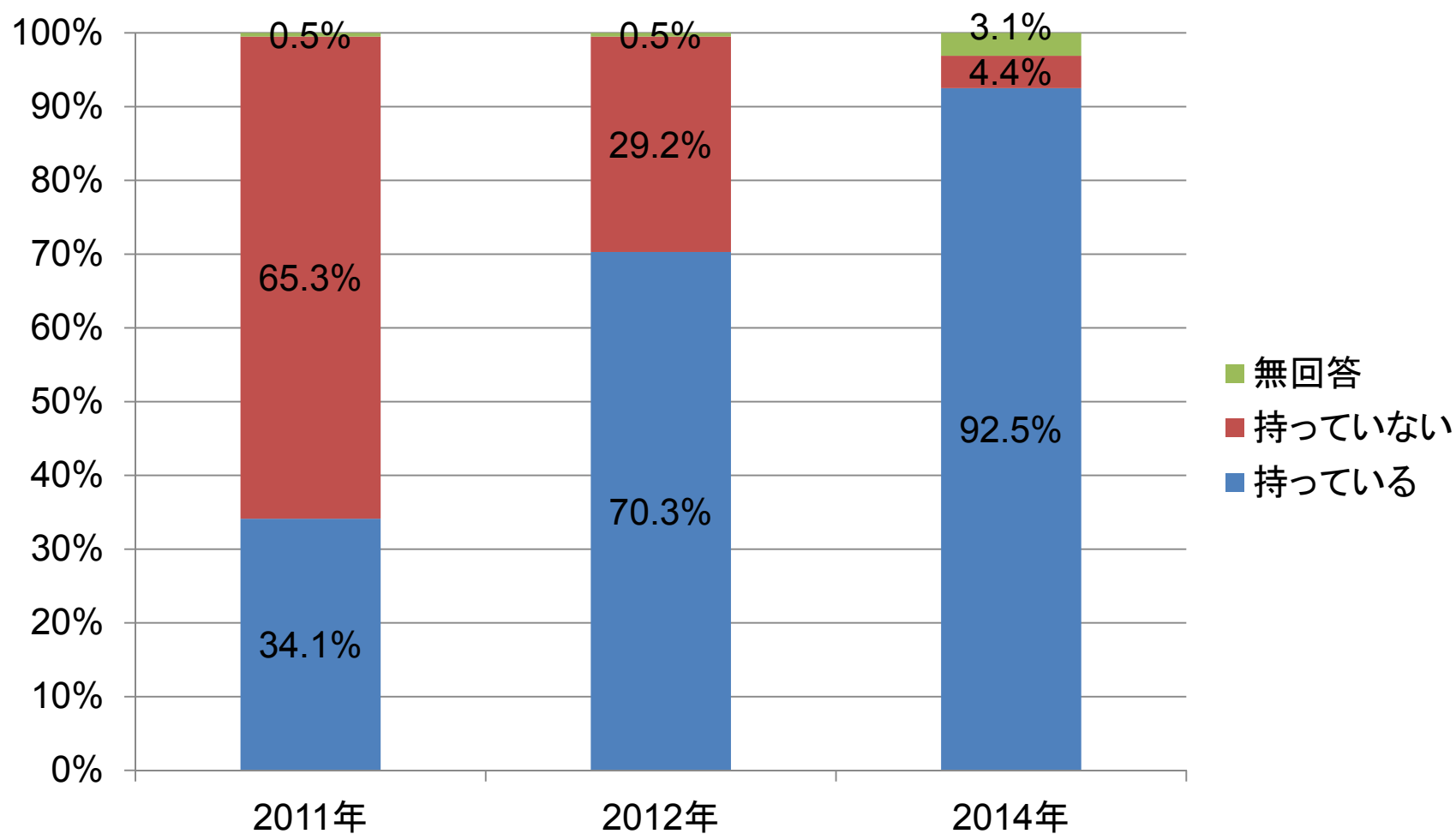
出典:『Campus Life Data 2014: 学生の消費生活に関する実態調査報告書』全国大学生生活協同組合連合会, 2015, p.51.

1日の勉強時間(2014年、専攻別)



出典:『Campus Life Data 2014: 学生の消費生活に関する実態調査報告書』全国大学生生活協同組合連合会, 2015, p.51.

スマホ保有率



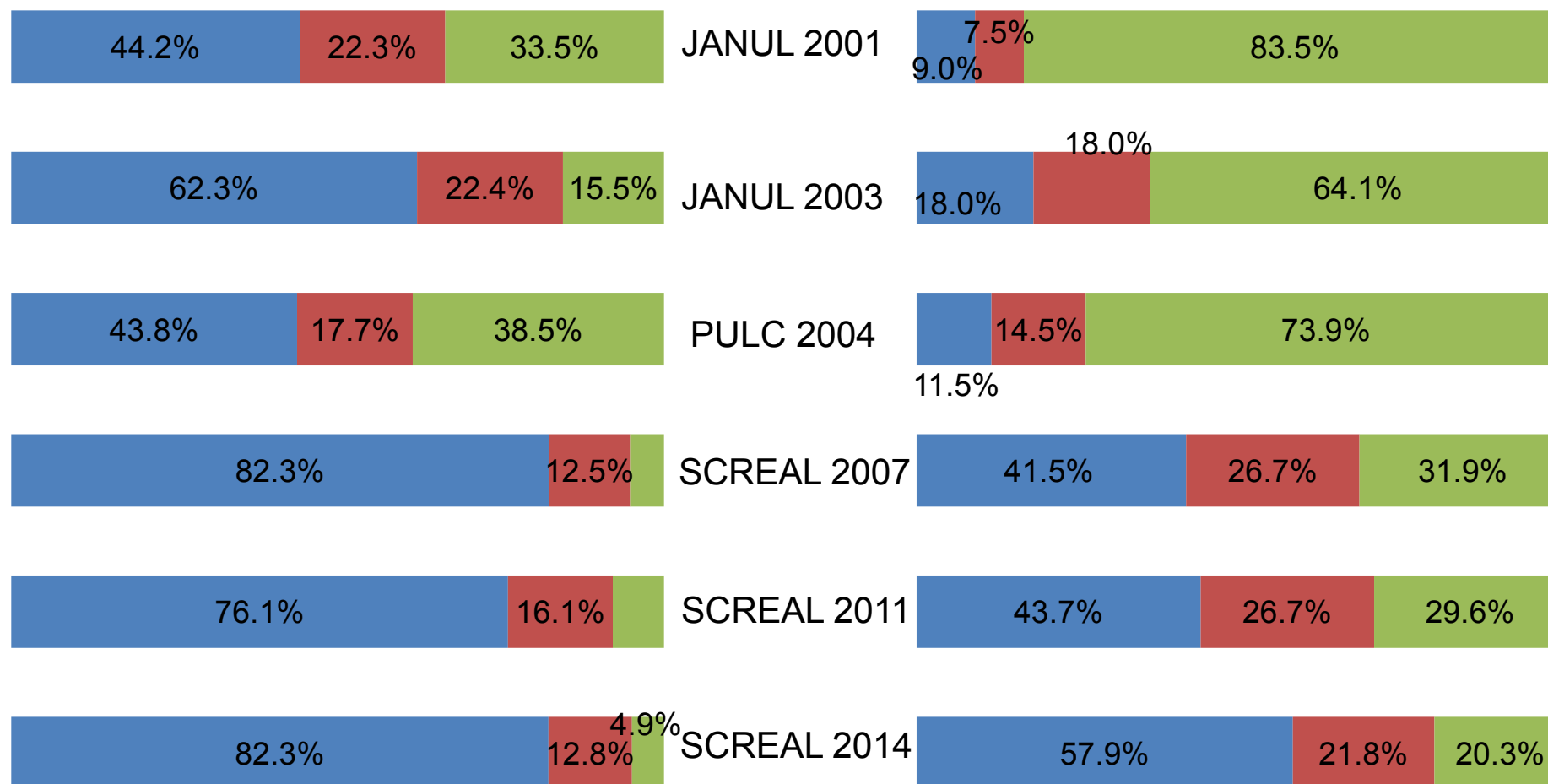
※なお、2014年の調査では、スマホの利用時間を調査している。そのため、利用時間0分を「持っていない」と想定してグラフを作成した。
出典：『Campus Life Data 2012: 学生の消費生活に関する実態調査報告書』全国大学生生活協同組合連合会, 2013, p.23. および
『Campus Life Data 2014: 学生の消費生活に関する実態調査報告書』全国大学生生活協同組合連合会, 2015, p.53.

研究者の学術情報利用

電子ジャーナルの利用習慣

自然科学

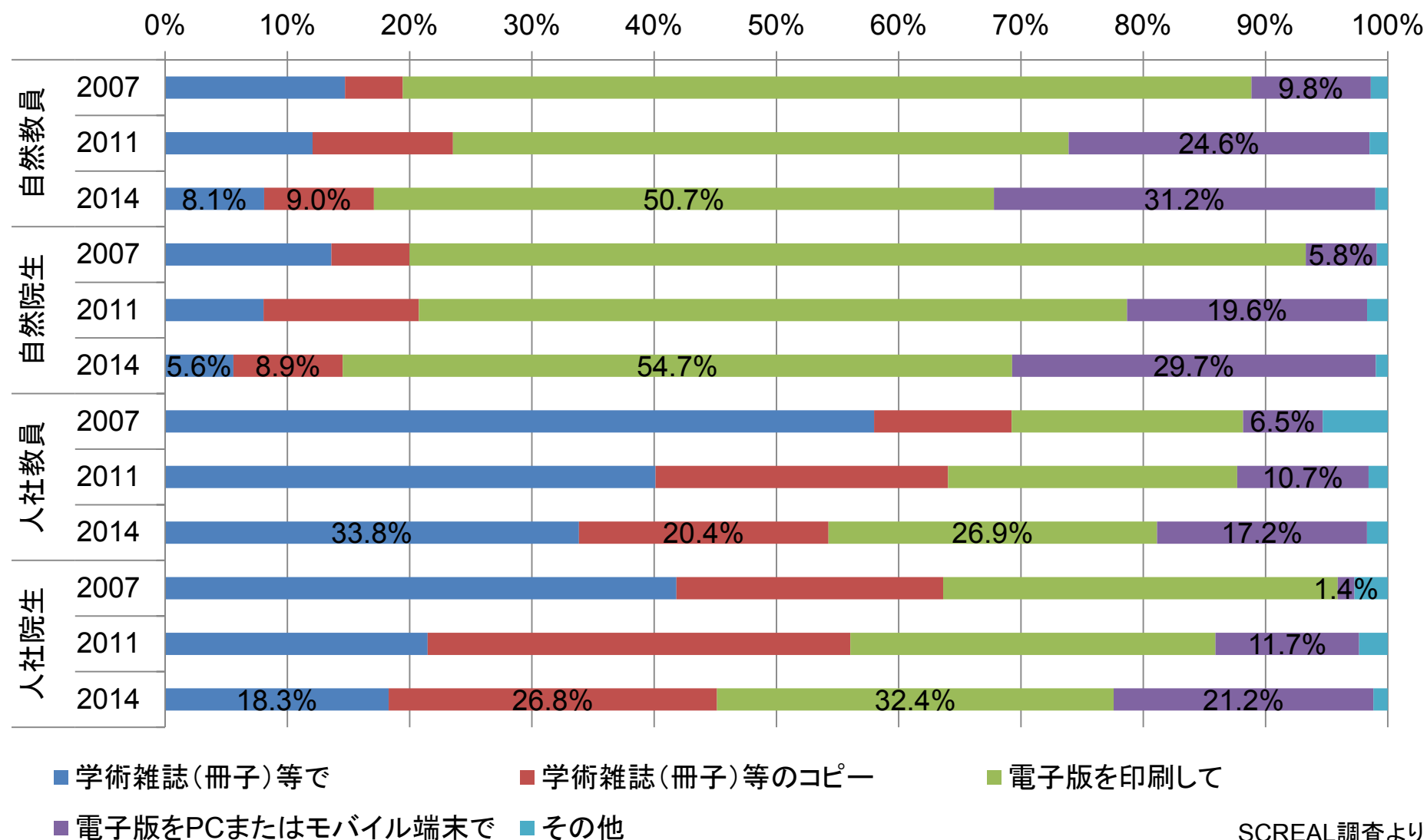
人文社会科学



■ よく利用(週1回以上) ■ ときどき利用 ■ 利用していない

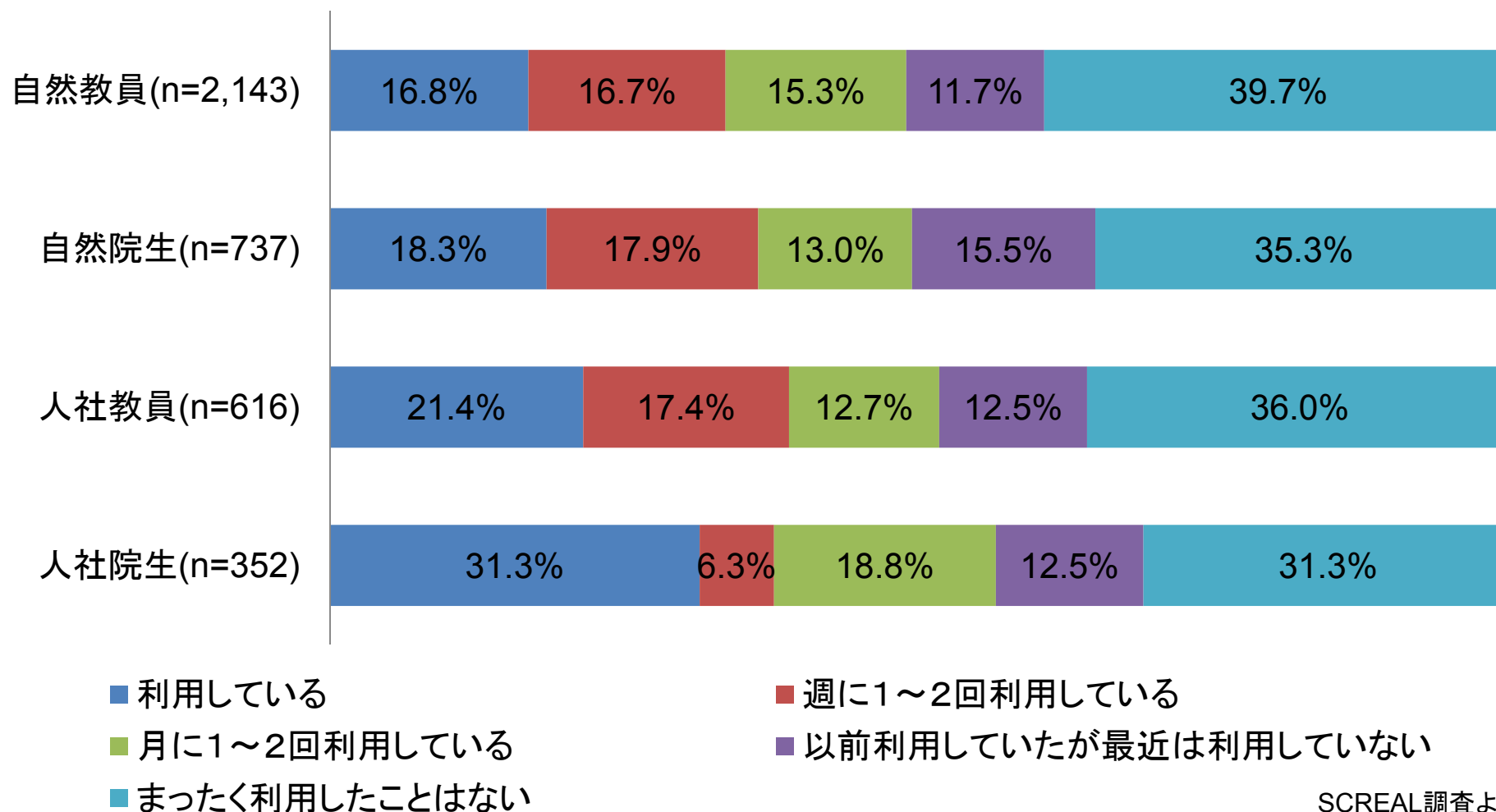
SCREAL調査より

論文閲覧の形式



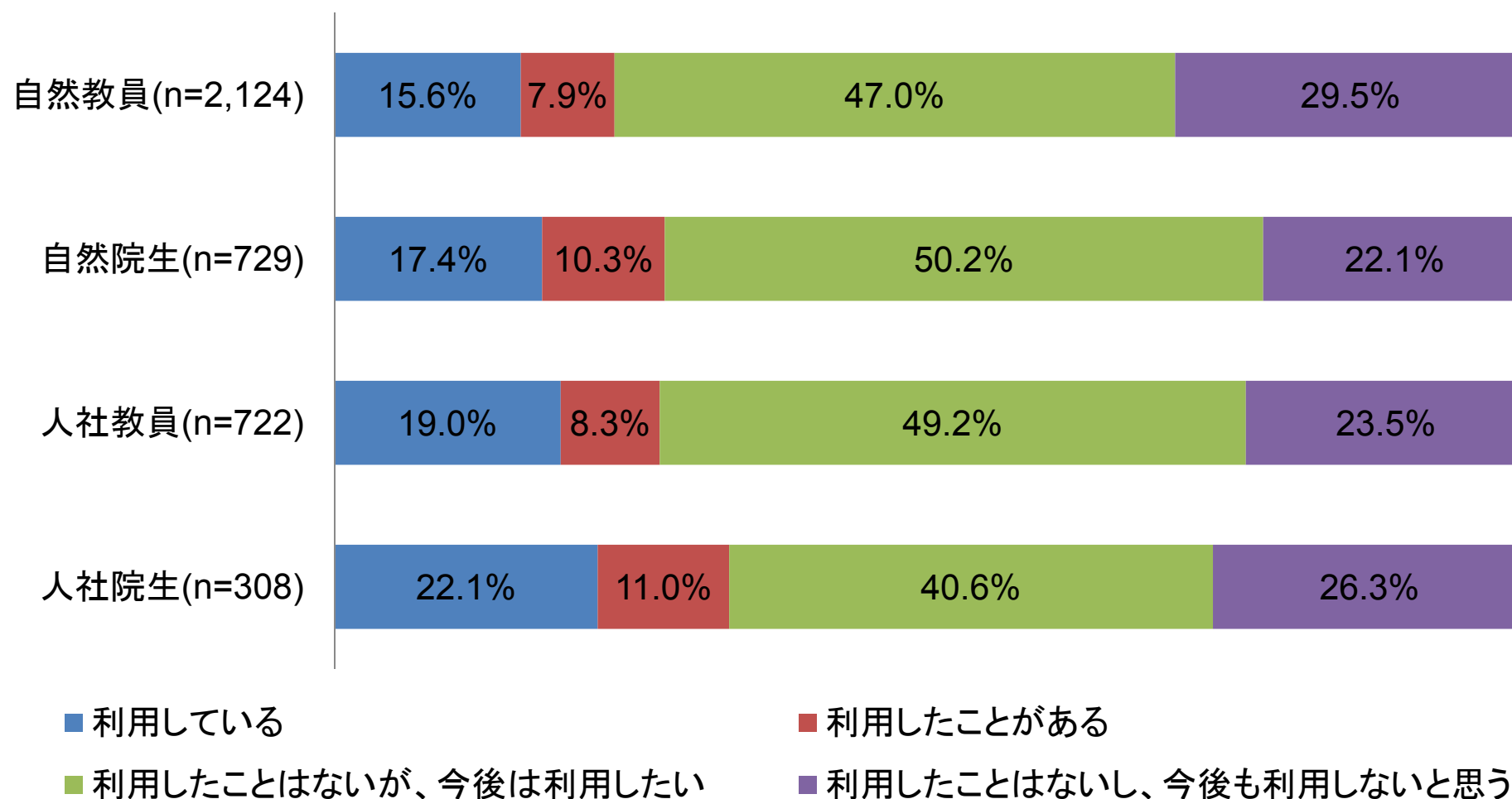
モバイル端末を利用した文献閲覧

Q モバイル端末を、研究・教育に関連する「資料を読むため」に利用していますか



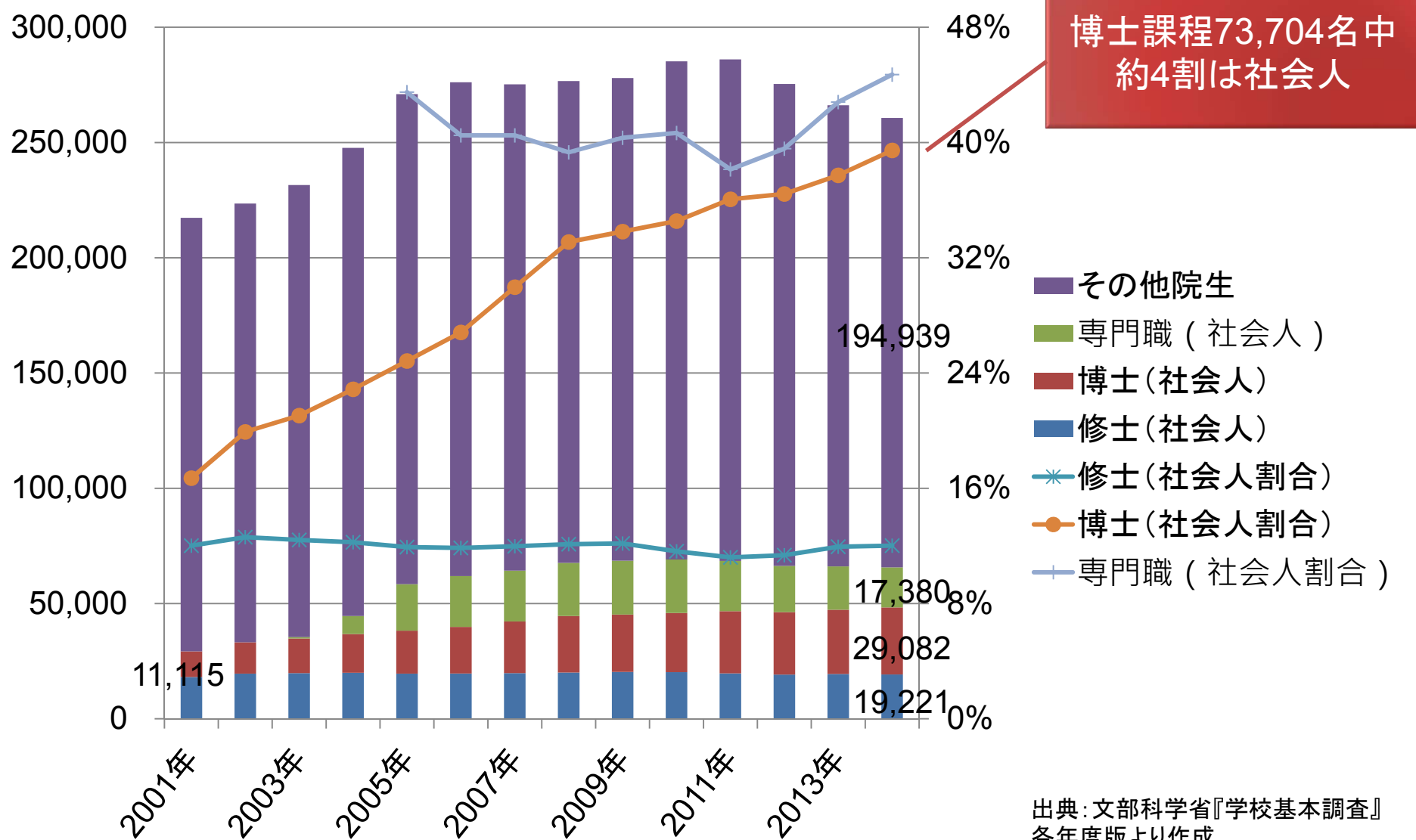
参考: SCREAL2011

Q 電子書籍(文献)を表示できる端末を、研究・教育に関連する資料のために利用していますか

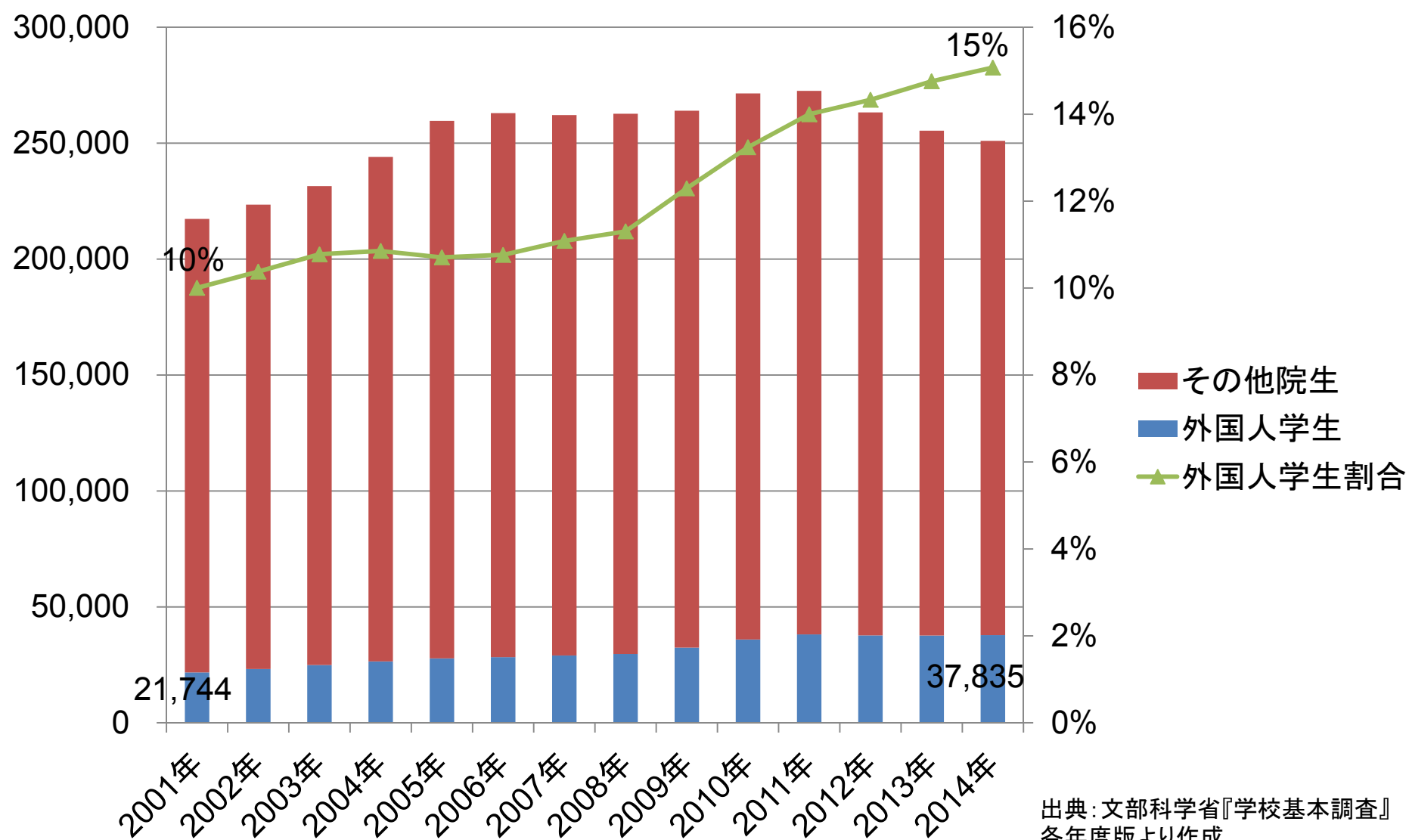


多様化する大学生

社会人大学院生



外国人大学院生

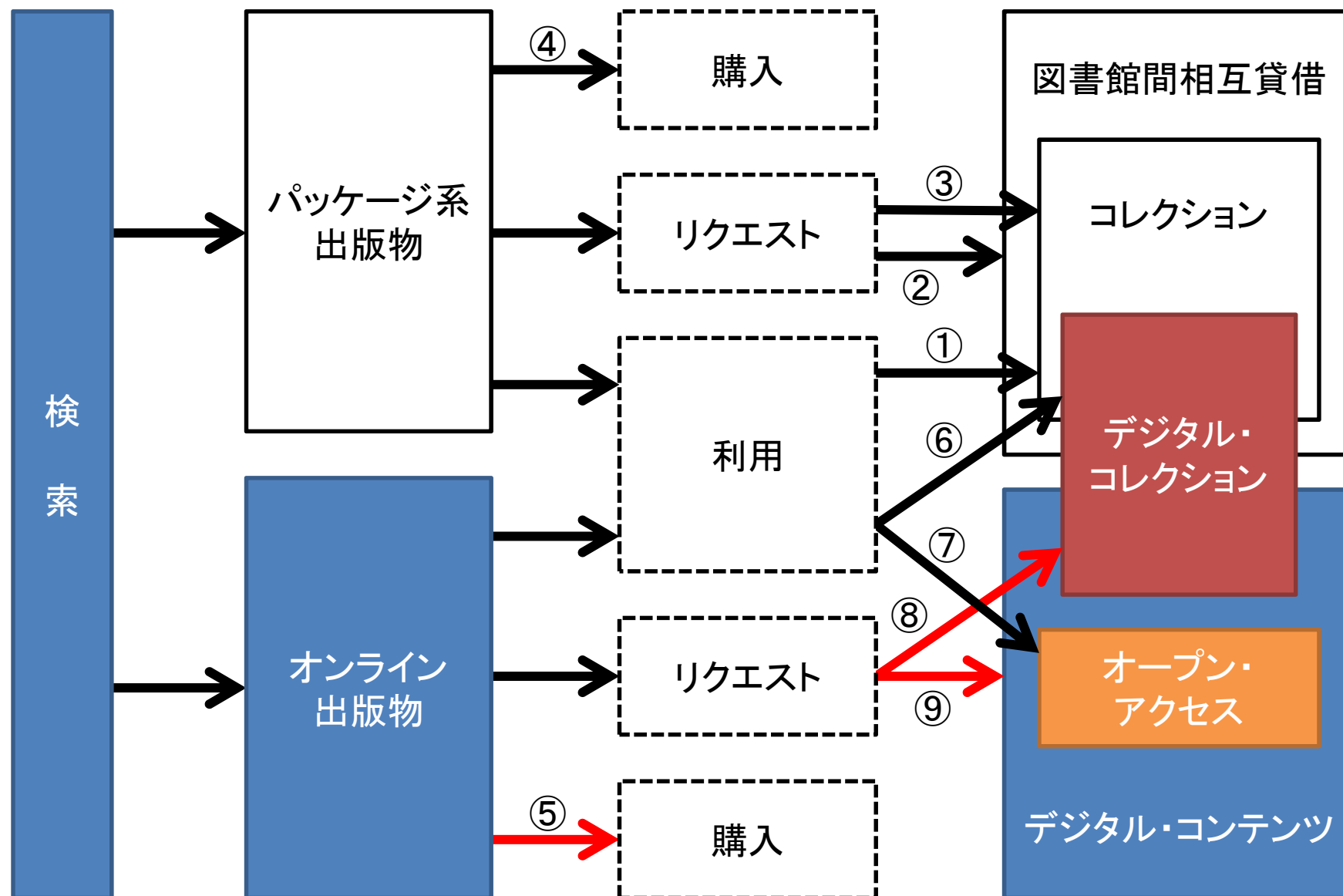


ここまでのまとめ

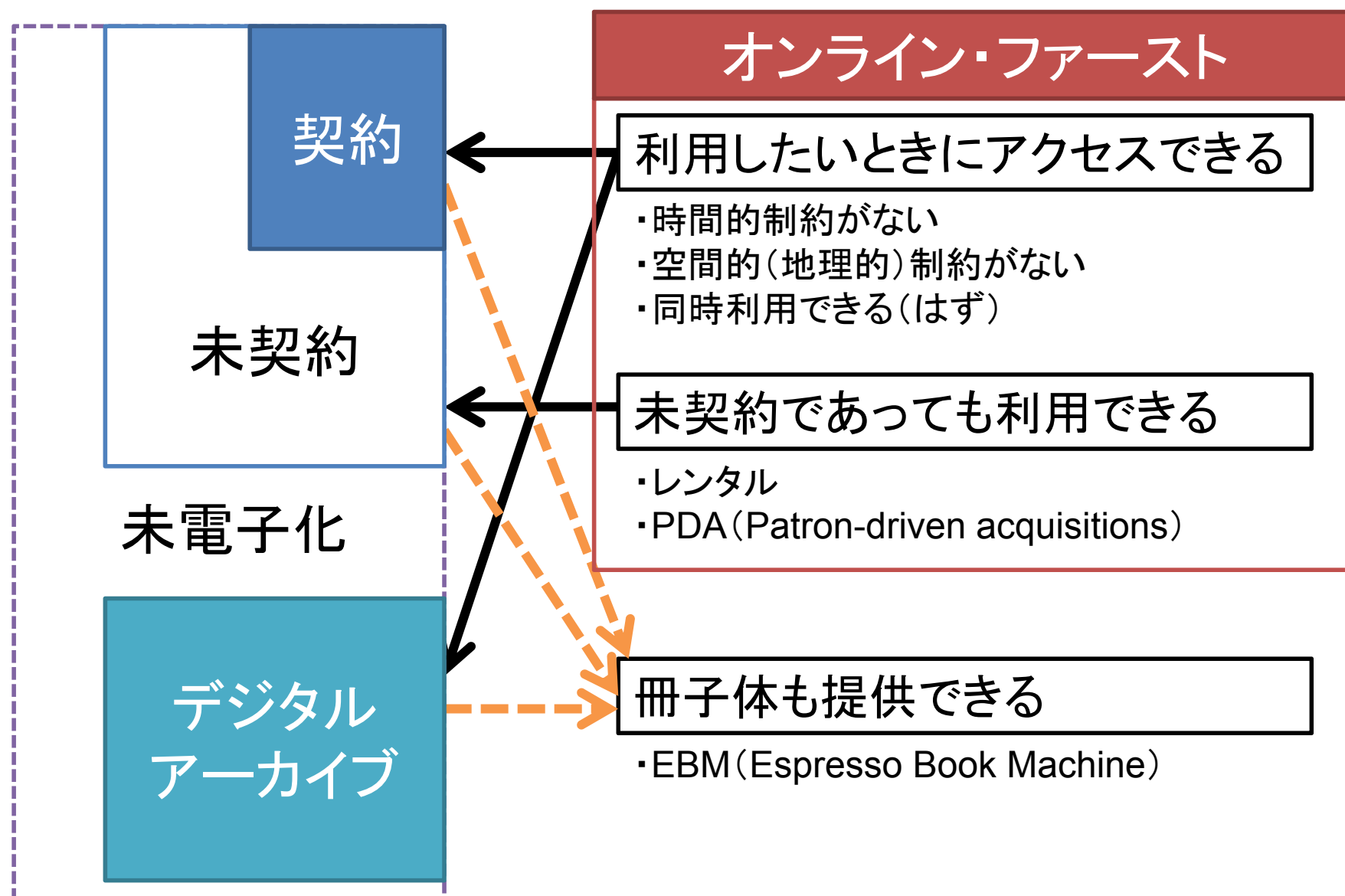
- 大学生の勉強時間は増えてきている
- 大学生や研究者を取り巻く学習・研究環境は、電子化している
- 社会人大学院生をはじめ、オフキャンパスユーザが増えている

“オンライン・ファースト”

デジタル時代の情報アクセスモデル



電子書籍と図書館



情報へのアクセスを実現する基盤

「利用可能性」の拡大

- ・学術情報の電子化をいかに進めるか
 - オープンアクセス
 - デジタルアーカイブ(パブリックドメイン)
 - オンライン出版物
- ・電子化された学術情報をいかに流通させるか

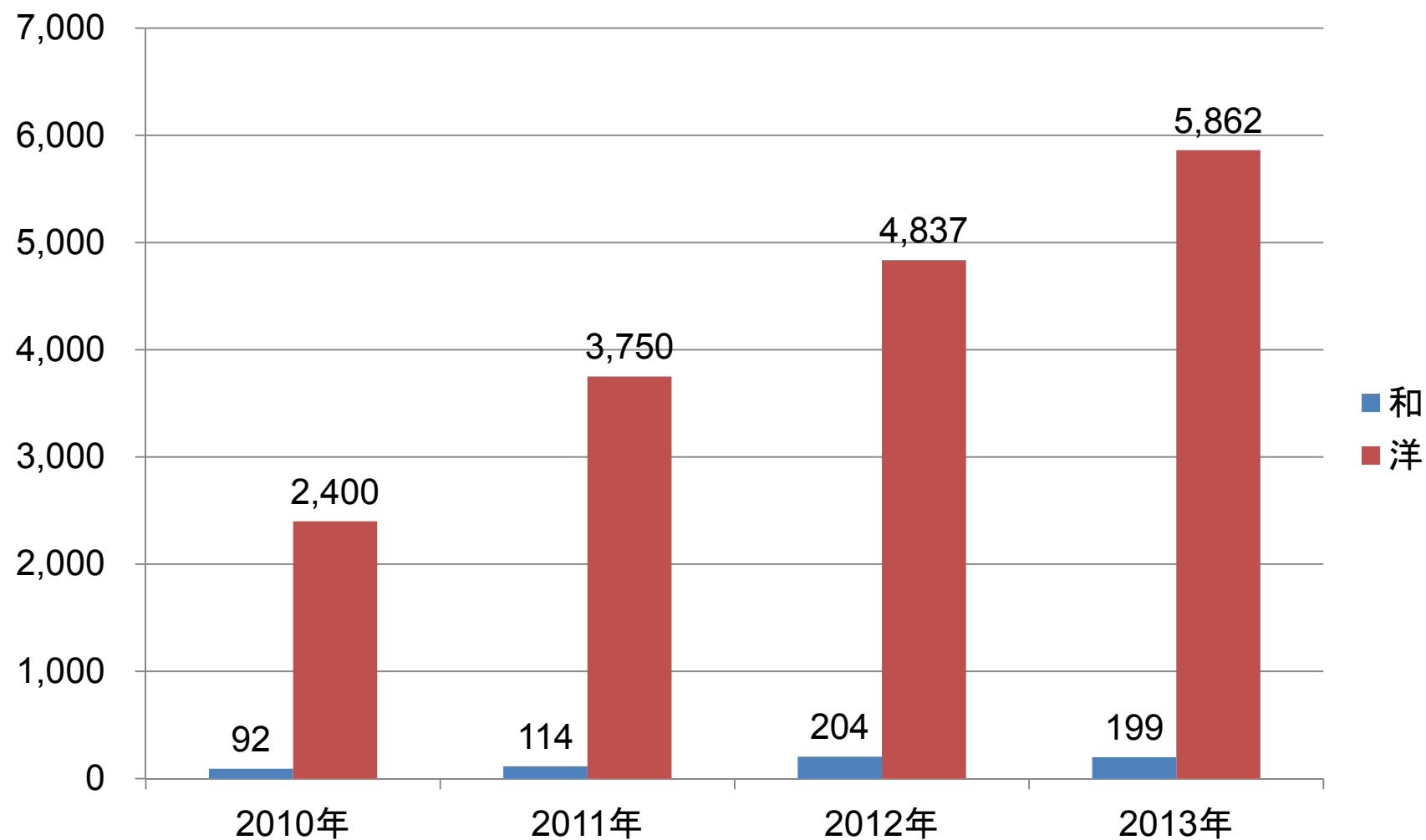
「発見可能性」の高機能化

- ・OPAC、ディスカバリーサービス、検索エンジン...

数字で見る大学図書館の現状

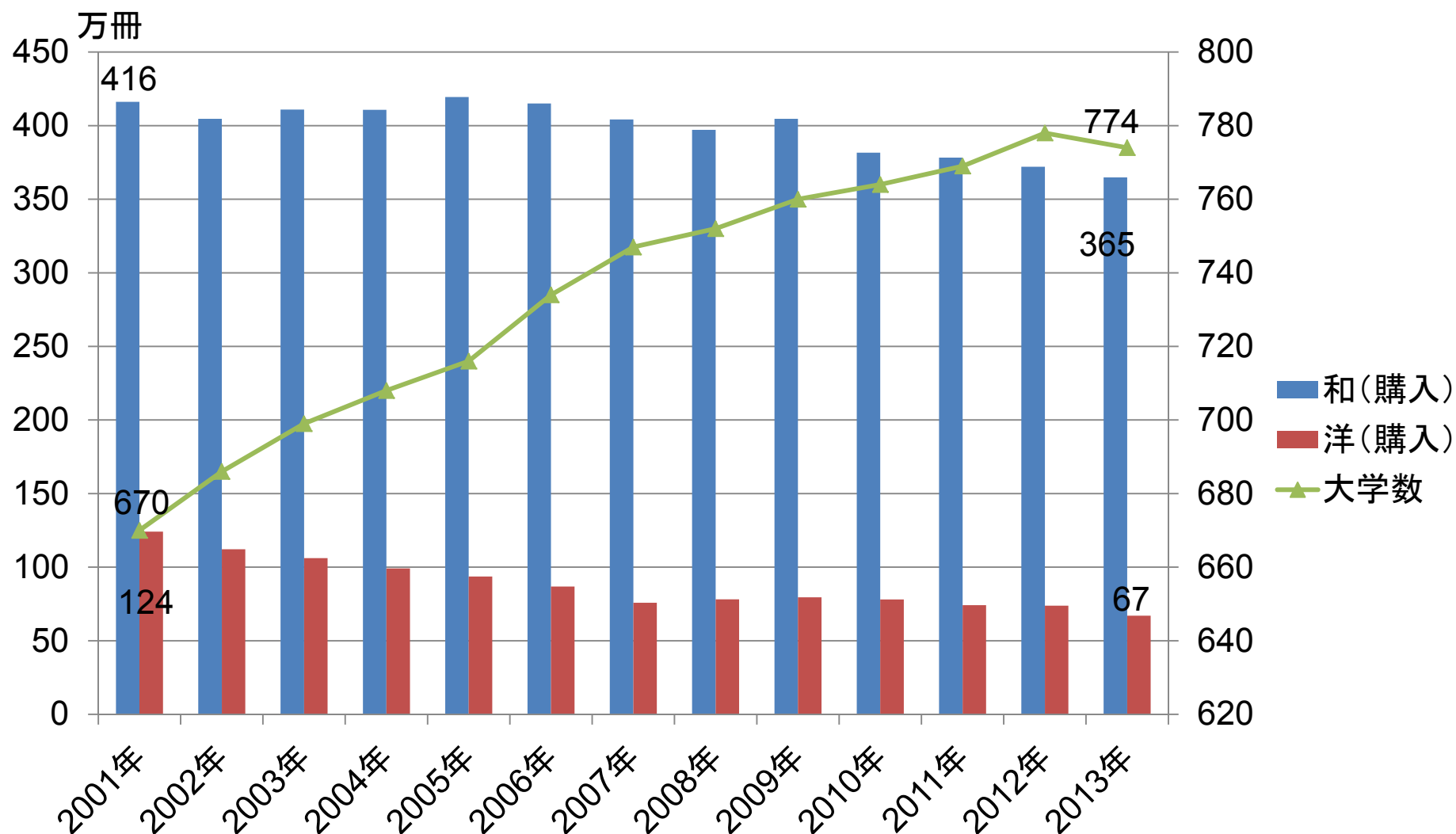
- 電子書籍の利用可能タイトル数の推移
- 図書受入冊数(購入)の推移
- 図書館資料費の推移

電子書籍利用可能タイトル数(1大学平均)



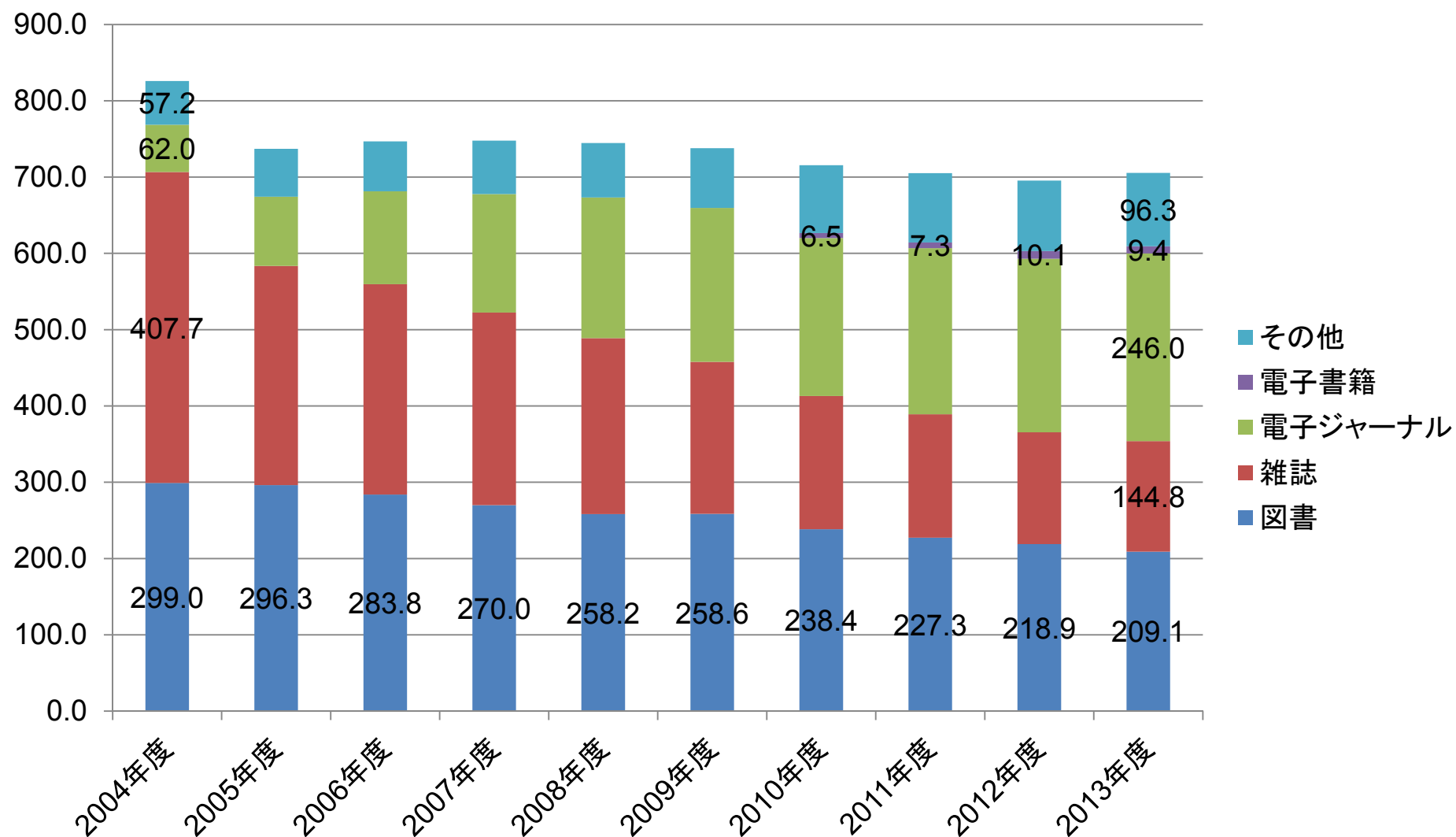
出典:『学術情報基盤実態調査結果報告』文部科学省.の各年度版から該当データを参照し作成

図書受入冊数(購入)



出典:『学術情報基盤実態調査結果報告』文部科学省.の各年度版から該当データを参照し作成

図書館資料費



出典:『学術情報基盤実態調査結果報告』文部科学省.の各年度版から該当データを参照し作成

利用者は情報へのアクセスを
求めています。そのとき...

ご清聴ありがとうございました

小山憲司(日本大学文理学部)

koyama.kenji@nihon-u.ac.jp